

「自然と共生、それが私たちの願い」

3月 耕作放棄地を借りた

わが法人きみかげの森の活動目的の一つが大和高原の耕作放棄地をよみがえらすこと、30年余の間何十億円という税金を注いで整備された大和高原地域の田畑に草ぼうぼうの放棄地がたくさんあるのを見ながら「なんとかしなきゃ」と思ってきたからだ。ありがたいことに、針ヶ別所地域で600坪、馬場地域で2100坪を所有者のご好意で借りることが決まった。

奈良県一？のじゃがいも生産！

4月9日(土曜日) ジャガイモの植え付け

種芋男爵100^{kg}、メークイン100^{kg}を約3500個に切り分けて皆で植えた。農協で種芋を買ったとき「こんなようけ素人がじゃが芋植えて何しますねん。奈良県一でっせ」といわれてしまったことが頭から離れず、がぜんやる気が湧いてきた。

芽を出し花を咲かせる畑を何度も何度も見て嬉しかった。しかし、じゃが芋の成長と共に雑草の成長も凄かった。草刈と土寄せの作業が大変、農業のプロに教えてもらいながらも600坪の畑がなんと広いことかを実感した。いつも3、4人で汗ビッシヨリになりながら正直もっと手伝ってくれる人が欲しいと思った。



7月28日(木曜日) ジャガイモの収穫

暑い日差しの中、ジャガイモ収穫の日を迎えた。高校生や小学生なども含め約40人が参加してくれた。どんなジャガイモが出来たか心配だったがどんどんバケツいっぱいになるごろごろした芋をみて嬉しくなった。その場でガスコンロを持ち込み塩茹でのジャガイモを皆さんに食べてもらった。昔の素朴な味が蘇ってきてとてもおいしかった。8月6日も芋ほり、それでも全部掘れないほどたくさんあった。特別小さなもの、傷ついたものなどを除いても約1トンの収穫があった。



秋の収穫祭—じゃがいもパーティー—

10月8日 絶好の秋晴れ、収穫したじゃがいもをベースにした料理で秋の収穫祭を開催、都祁のサロン木屋庄に60人余が参加、そのうち13人が料理人となって31種類の手作りのご馳走が並んだ。約3分の2がじゃがいもを使った料理、さすが主婦暦？10年のオバサンは凄いね。クロック・ポテトサラダ・シチュー・肉じゃがなど定番メニューからじゃがいもの塩茹で・じゃがいもの味噌煮・キッシュ・じゃがいもとコーンの春巻き・じゃがいもギョーザ・ヴィシーソワーズ・ピザ・じゃがいものタルト・など珍しい料理や食べたことのないメニューが勢ぞろい。

なにしろ、60人以上の食べる量が分からないし朝早くから台所に立ちっぱなしで奮闘してくださった。でもみんな「美味しい美味しい」と言って食べ、80歳以上のお年寄りから小学校1年生に至るまで満足げな笑顔だった。真夏の炎天下、汗まみれになって草刈をしたり芋ほりをした成果だから、こんなに皆さんに喜んでもらうとしんどかったことも吹っ飛んでしまった。

収穫した約1トンのじゃがいもは保育所や福祉施設などで安く買ってもらうことにしたらじきに完売となった。耕作を放棄した畑から生まれたじゃがいもが社会のお役にたっていると思うと、やりがいがあるというものだ。



耕作放棄地に蕎麦の花が咲いた

8月20日 ジャガイモの後は蕎麦に挑戦!

18人集合、「信濃一号」の種10キログラムを600坪ほどの畑に条蒔きした。なにしろ全員蕎麦の種蒔きは初体験、こんな蒔きかたで芽が出るのかなと不安に思っていたが5日もすると青い芽が可愛い顔をみせた。9月20日頃になると白い花が満開に、台風の影響で少し倒れたのもあるが、順調に育った。



11月5日 刈り取り作業、

朝9時から総勢43人が蕎麦畑に集結し、鎌で刈り取る人、それを運ぶ人、ブルーシートの上で実をシゴキとる人、昼食を用意する人など（途中で雨が降ってきたけれど）夕方までに全てを終えた。早く新蕎麦をみんなで食べたいな、でも素人ばかり、勉強しなければ、これからの工程が問題だ。



変わりつつある山に感動

地球環境基金の補助金をいただきながら進めている池が、NPO法人「森と人のネットワーク奈良」の協力を得て大体出来上がった。この池と周辺の湿地に大和高原地域の希少動植物を育ててゆくことになる。

また約10ヘクタールの山の中に延長1.4キロの作業道を整備する事業も進みつつある。これが完成すれば自動車や車椅子も入っていける道になるし、広葉樹林が6割でいろんな可能性を秘めている。しいたけ栽培や炭焼きも早くやりたい。夢が少しずつ現実のものとなってゆくの嬉しい。

